

① 研究課題名	骨腫瘍掻爬後の骨欠損に対する人工骨の臨床成績に関する研究
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
新潟大学整形外科において骨腫瘍と診断され、腫瘍掻爬術が施行され、骨欠損部に人工骨を使用した患者さんのうち、2000 年 1 月 1 日以降に手術を受けた方を対象とします。	
③ 概要	
本研究は、骨腫瘍に対する腫瘍掻爬術後の骨欠損に対して使用された人工骨の治療成績や合併症を明らかにすることを目的としています。診療録や画像検査など、通常診療の中で得られている情報を用いて解析を行い、人工骨を用いた骨欠損充填の臨床成績を明らかにすることで、今後の骨腫瘍治療の発展に役立てることを目指します。本研究のために新たな検査や治療を行うことはありません。	
④申請番号	
⑤研究の目的・意義	骨腫瘍の治療では腫瘍掻爬術が広く行われていますが、掻爬後には骨欠損が生じるため、その充填方法として自家骨移植、骨セメント、人工骨など様々な方法が用いられています。人工骨は採骨を必要としないため身体的負担が少ないという利点がありますが、実臨床における長期成績については十分なデータが蓄積されているとは言えません。本研究により、骨腫瘍治療の質を向上させることを目的としています。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2029 年 4 月 30 日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法(他の機関へ提供される場合はその方法を含む。)	提供していただく情報は、氏名などを削除し研究用の番号を付けて管理します(匿名化)。この情報だけでは個人が特定できない状態で解析を行います。他の機関へ個人情報を提供することはありません。研究成果は学会や専門誌で発表されることがありますが、個人が特定されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	診療記録、画像検査結果(CT、MRI 等)、病理結果、治療内容、人工骨の種類、周術期の合併症
⑨利用する者の範囲	新潟県立がんセンター整形外科
試料・情報の管理について責任を有する者	新潟県立がんセンター 骨軟部腫瘍・整形外科 畠野宏史
お問い合わせ先	